

令和4年度第1回石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議
参加者説明要旨及び意見交換等概要

日 時：令和4年10月7日（金）

午後2時～午後4時

場 所：石巻商工会議所1階会議室

議 事

議題（1）①石巻地域の雇用情勢及び各教育機関における令和3・4年度卒業（予定）者の就職内定状況等について

①石巻公共職業安定所

◇有効求人・有効求職者数の動向について（景気動向：一致指数）

- ・令和4年8月の有効求人倍率は1.45倍。前月と比較して0.04ポイント下回った。宮城県内地域では4番目に高い数値となっている。有効求人数は4,129人で前月より2.5%減少。求人数は5か月連続で減少している。令和2年2月の5,000人を下回る値が続いている。有効求職者数については2,848人。こちらについては前月より0.2%減少しており、4か月連続で減少。有効求人、有効求職者ともに減少しているが、求人の減少幅が大きいことから有効求人倍率が減少している状況である。前年に比べると求人数は上向きになりつつあるが、新型コロナウイルスの影響前の3年前の数値までは回復しておらず、引き続き影響を注視していく必要がある。

◇新規求人・新規求職者数の動向（景気動向：先行指数）

- ・新規求人数において前年同月より増加したのは、製造業（食料品を除く）、卸売・小売、運輸・郵便、医療・福祉で、減少したのは、建設、製造業（食料品）、サービス業。増加した要因としては、製造業で電子部品製造業の新工場増設に伴う求人数の増加、医療・福祉においては、医療機関から小規模の求人が増えている。また、新規開設の障害者雇用型就労支援事業所からまとまった求人があり、増加している。減少した建設業については復興事業の終了に伴う、現場の減少、サービス業については、求人の8割が警備業であるが、建設会社の現場減少との関連により減少している。ここには記載していないが宿泊・飲食業においては、行動制限がない状況で求人が増加しており、回復基調が続いている。
- ・新規求職者においては、在職者、離職者、無業者すべて前年同月より増加している。石巻地域においては、小規模の事業縮小、廃止等はあったが、まとまった人数の雇用調整がなかったことから事業主都合の離職者は減少している。求職者の7割がフルタイムを希望しており、3割がパートタイムを希望しているという状況である。ここには記載していないが、求職者のうち60歳以上も増えており、全体の20%を超えている状況である。新型コロナウイルスの影響により、急がずに様子を見ながら求職活動をしたい方が多いように窺える。

◇新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、円安の影響について

- ・関係のある事業者からの情報によると水産加工業では不漁により原料確保ができず、年々の収益悪化で事業停止となった事業者がいた。また、大手の商社との繋がりが多い事業所では、今期の原料は確保できているものの、このような状況が続けば来期は厳しいという声がある。事業者から多く聞こえてくるのは、原料価格の高騰よりも燃料、電気料金という固定費の高騰が非常に厳しいとの声である。特に大規模な冷蔵施設のように24時間稼働せざるを得ない施設を抱える食品工場では経営を圧迫しているようだ。製品価格への転嫁もできていないようである。一方、生産品を輸出されている事業者は円安のメリットを感じているようである。中古車の販売業者は国内販売よりも買取を増やし、輸出により利益を増やしているとのこと。
- ・全般的に事業所の休業に伴う雇用調整助成金の申請は減少してきており、休業日数が全体的に減少しているといった状況。労働力の確保に熱心な事業者も増えてきており、そのような事業者は、特殊な技術や専門性の高さにより経営基盤が安定しているように感じられる。

◇年度別・月別就職決定（内定）状況について

- ・令和4年3月高校卒業者の就職内定率は99.8%だった。過去3年間では最も高い内定率だっ

た。ただし、全県的にみると仙台が 99.7%、石巻が 99.8%、その他地域が 100%だった。石巻は求職者数 412 人、就職決定者が 411 人、未決定者が 1 人となった。管内就職者数が 225 人で、就職者全体の 54.6%ということで昨年度の 53.3%よりもわずかに増加した。

◇令和 5 年 3 月新規高等学校卒業予定者の求職動向（令和 4 年 8 月末現在）について

・卒業予定者 1,378 人。前年同月比で 5.0%少なく、73 人ほど減少している。そのうち進学希望者が 865 人。前年同月比で 4.7%減少している。就職希望者が 417 人。前年同月と同数だった。このうち、石巻管内希望者が 174 人となっており、前年同月比で 10.8%減少している。ただし、卒業予定者も減少しているため、進学希望者、就職希望者それぞれ全体に占める割合はほぼ変わらない状況である。

◇令和 5 年 3 月新規高等学校卒業者の産業別求人受理状況

・8 月末現在求人数 771 人だった。前年同月比で 7.4%増加した。農業、製造業、運輸・郵便業で増加がみられた。運送関係では業績回復の見込みがあるとのことで求人数が増加している。

②石巻専修大学

◇令和 3 年度最終進路状況について

・令和 3 年度は卒業生数が 281 人、このうち就職希望者が 249 人だった。また、就職決定率が 97.6%の 243 人。一昨年は 93.3%だったので、4.3%増加したということになる。コロナ前の令和元年の結果は、96.7%だったので単純に数値だけ見ていくとコロナ前の数値に戻ったということが言える。ただし、毎月の推移をみるとコロナ前は 6、7 月に就職内定をもらう学生が多かったが、コロナ後は就職内定をもらう時期が遅くなっており、2、3 月に駆け込みで内定をもらう学生もいる状況である。

◇業種別就職状況について

・例年と遜色ない数値となった。理工学部については、小売・卸売業、製造業関係が多い。経営学部については、小売・卸売業が多い。人間学部については、小売・卸売業も多いが、公務員関係も多い。

◇地域別就職状況

・一番就職者が多いのは、134 人と北海道・東北地方となっている。続いて宮城県が 87 人。そのうち石巻圏域の就職者は平成 30 年 3 月卒業生からの平均値をみると大体年間の就職希望者が 225 人程度でそのうち石巻圏域の就職者は 15,6 人程度となり、石巻圏域での就職率は約 6.9%となる。石巻出身者で平成 30 年 3 月卒業生から平均すると就職希望者が 43.4 人。そのうちの 11.4 人、26.3%が石巻圏域に就職している。

・地元就職促進の取組については、昨年度から東部地方振興事務所と連携しながら、石巻地域企業研究セミナーを実施している。実施の効果についての明確な数字はまだ出ていないが、今年の卒業生においては若干増加しており当該セミナーによる効果が出ているのではないかと考えられる。今後も当該セミナーを続けていくことによって効果を検証していきたい。

◇令和 4 年 8 月 31 日現在の進路状況について

・今年度の 4 年生は 348 人と昨年度より増加している。このうち就職希望者数は 306 人。8 月末現在での就職内定率は 50%となっている。昨年度の増時期が 43.6%で上昇しているが、先ほど話したようにコロナ前に比べるとまだまだ追いついておらず、コロナ前であれば 8 月末時点で内定率は 6 割を超えており、現状としては苦しい状況だと思っている。

◇新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、円安の影響について

・新型コロナの影響については、先ほどお伝えした数値からは景気は回復基調にあるように考えられるが正直なところどの程度今後影響があるのか分からない。アウトソーシング系企業 2,3 社の話を聞くと、全体的に求人は増えているようで売り手市場は継続しているとのこと。最近では、文系卒の学生を理系社員として育てているという企業も出てきているとの話を聞く。

・ロシア、ウクライナ関係については電子デバイス、半導体製造業の求人が増えていると聞くが本学の学生の就職者数はそれほど多くない。

- ・円安については本来であれば悪い影響があってもおかしくないが、本学の機械系学部の製造業系への就職内定状況が非常に良い状態である。本学については現状では円安の影響を受けていないようである。

③石巻高等技術専門校

◇令和3年度（令和4年3月修了）の就職内定状況

- ・本校は、普通課程、短期課程、追加習得訓練の3つの課程に分かれている。普通課程においては、自動車整備科、金属加工科、木工科があり、主に高校新卒者等若年者を対象としており、1～2年の訓練を受けてもらう。短期課程については、施設内と施設外で行う訓練があり、施設内では溶接科と配管科があり、施設外でIT基礎科、経理基礎科等がある。追加訓練については、在職者を対象とした訓練で、経理基礎科や溶接科等がある。
- ・普通課程の自動車整備科については定員20人に対し、入学者が10人で例年より少ない状況である。金属加工科については、定員20人に対し、入学者が3人。ここ最近入学者が激減している状況。
木工科については定員10人に対し6人の入学者となった。県外よりも県内就職者が多い。
- ・短期課程の溶接科は昨年度2人が入学。そのうち1人が内定を得ている。

◇令和4年度（令和5年3月修了予定）の就職内定状況

- ・自動車整備科については、入学者19人のうち、退学者が5人、内定者が11人となっている、金属加工科については、入学者1人で未内定の状況。木工科については、入学者5人で全員未内定の状況。

◇新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、円安の影響について

- ・本校は小規模な学生数のため、大きな影響は感じられないが入学者数に影響があり、景気が悪い状況で入学者数が増加し、景気が良い状況では入学者数が減少するという傾向がある。

④東部地方振興事務所

◇石巻圏域の人口の推移と進学希望者も含めた管内高校卒業者の全体像

- ・「石巻圏域の将来推計人口」によると、管内の人口は、平成22年までは20万人を超えていたが、平成23年には、東日本大震災の影響により1万人以上が減少し、20万人を下回っている。以降、人口は減少し続け、令和3年には、19万人を下回る18万3,329人となり、令和27年には、そこから約35%減の11万9,377人になると推計されている。
- ・石巻圏域の生産年齢人口など年齢3区分別の人口の推移を見ると生産年齢人口については東日本大震災前の平成22年は128,664人いたが、令和27年には、そこから約55%減の58,396人になると推計されている。
- ・管内の高校卒業生数は、概ね1,500名程度で推移しているが、そのうち、3分の2程度の約1,000名が進学希望者となっており、残り3分の1程度の約500名が、就職希望者となっている。
- ・「地元就職率」欄に記載のとおり、就職希望者約500名の半数近くは管内へ就職しており、近年は、若干ずつその割合も上昇している。今後とも、地元就職率の上昇に向け、皆様と連携しながら対応したいと考えているので、御協力をお願いしたい。

⑤高校教育課

◇令和5年3月高等学校卒業予定者の進路希望状況（8月末現在）について

- ・卒業予定者は17,988人で前年同月より699人少ない状況。そのうち進学希望者は、14,648人で前年同月より224人減少。また、就職希望者は3,510人で前年同月より429人減少している。前月との比較としては、進学希望者は79.5%で0.1ポイント増加、就職希望者は19.5%で前月と同じという状況。臨時的仕事希望者は、0.3%で11人増加している。進路未定者は0.7%で38人減少している。
- ・就職希望者3,510人の県内外の希望割合は、県内が86.7%、県外が13.3%となっており、県内希望者が2.4ポイント減少している。7月末と比較し、県内希望者の減少、県外希望者の増

加という状況は昨年度と同様の傾向となっている。

◇令和5年3月高等学校卒業予定者の産業別・職業別就職希望状況（7月末現在）

- ・産業別の就職希望状況については昨年度と同様の傾向がみられた。製造業が最も多く29.6%の就職希望者、次が公務関係の14.0%、未定者が13.9%という順番に多い。職業別の就職希望状況も昨年度と同様の傾向となっており、一番多いのは製造加工従事者の16.3%。続いて事務従事者13.4%、未定の12.3%という状況になっている。

議題（1）②意見交換

議題（1）①で説明のあった就職に関する動向等や各機関の現場での状況について意見

◇石巻工業高校

- ・本学は5学科あり、1クラス40人で200人の定員となっているが、少子化の影響もあり3年生は182人。例年、進学が4割で就職が6割というような状況で100名強が就職する。今まさに3年生が就職試験を受けて内定が出てきているところである。新型コロナやロシア円安等の経済状況等様々あるが、大きな影響は受けていない。例年並みの内定状況となっている。

◇石巻商工会議所

- ・円安やウクライナ情勢については特に円安の影響が大きく、原材料の値上げが起こっており、企業の経営環境は大変厳しくなっている。新型コロナの影響については、やや落ち着いたように見受けられる。宿泊業については、宿泊客が戻ってきているが、消費マインドが下がってきているなど、まだ不安要素がある。企業の人手不足の状況は続いており、なかなかコロナ前には至っていない。データでもあり500人の高卒就職希望者がいるが、6割程度が地域に定着している。この数字をもっと高めていく努力が必要である。有効求人倍率は1.5倍程度と売り手市場が続いているが、このような状況は当分の間続くだろう。

◇東部地方振興事務所

- ・高校生の就職動向については、毎年約1,500人卒業する中で、進学が1,000人、就職が500人、その約半分が地元で就職するという状況になっている。石巻専修大学も含め地元就職率が少しずつ増えてきているので関係機関連携してこの流れを定着させていきたい。

議題（2）①各機関における令和4年度の産業人材育成関係事業について

①石巻商工会議所

- ・当所では常設の委員会として雇用推進委員会を開催しており、今年度は8月に石巻管内高等学校と石巻専修大学の進路指導者と懇談会を実施した。企業や学校から様々な意見をいただき、大変参考になった。
- ・石巻地域企業ガイドを東部地方振興事務所と連携して作成中。6月末で50社の企業を掲載していたが最近34社が追加され、計84社が見られるようになる予定。今までは、紙ベースが主流だったが、今の高校生はスマホ中心なのでQRコードによって家でも見られるというように作っており、このガイドを東部地方振興事務所と連携しながらもっと普及させていきたいと思っている。
- ・市内高校（宮城県水産高校、石巻商業高校、石巻北高校）へ就職対策支援をしている。当所の職員が高校に出向き、面接の仕方として作法から受け答えまでサポートしている。学校からも大変喜ばれている。
- ・インターンシップ支援については新型コロナの影響により3年間実施できていない状況。企業からも実施したいとの要望を受けており、来年度からは是非実施したいと考えている。東部地方振興事務所や石巻市等から意見を聞きながら継続して実施していきたい。
- ・人材育成支援事業として新入社員セミナー、接遇セミナー、人材定着セミナー等を実施しており、経営者と従業員両面で実施している。

②石巻信用金庫

- ・今年度は石巻専修大学の石巻圏域企業研究セミナーの方に7月14日に参加させていただいている。私どものブースには学生が10人ぐらい聴講した。

- ・地元の子供たちにお金の大切さを知ってもらう教室を開催しており、SDGsでも謳っている教育を通じて地域社会へ貢献することを目的として、石巻管内の生徒を対象としたしんきんマナースクールを実施している。
- ・IS奨学研究員研究発表会については、当金庫では平成7年から石巻専修大学IS奨学金として毎年研究費を贈呈しており、昨日の夜、令和3年度の研究の発表会を開催した。今年度については令和5年度のIS奨学金の贈呈式を開催。発表会の内容については、地域産業に関係した大変興味深い内容となっていた。
- ・当金庫の本年度の採用状況について簡単に説明すると、大卒の方は、概ね計画通り、6名内定しており、今週月曜日に内定式を開催した。だが高卒の方については個人的には今年度、石巻市総合体育館で開催予定だった合同企業説明会が中止となり、なかなか高校生向けへのPRをする場が少なかったと感じている。

③石巻専修大学

- ・7/7, 14に実施した石巻圏域企業研究セミナーについて2日間で20社参加。学生の参加者は、延べ80名。実人数は60名。昨年度比べると、参加企業が15社、学生が44人だったため、いずれも増えた。この調子で来年も実施したい。
- ・地元就職応援プロジェクトについては、参加学生が4名おり、そのうち1名が石巻信用金庫に内定をいただいている。そのほか本学の事務職に1人、気仙沼信用金庫に1人内定している。もう1名は就職活動中である。

④石巻管内高校卒業者就職対策連絡会議（石巻工業高校の取組について）

- ・今年度の進路指導関係の取組について、まず、高校生向けものづくり企業見学会やSDGs追求型地域産業振興事業については、宮城県の経済商工観光部産業人材対策課と石巻地域産業人材育成プラットフォームのサポートにより機械科の生徒を対象に企業見学を実施し、非常に大きな学びの場となった。
- ・インターンシップに関しては機械科及び建築科がコロナの影響により中止となったが科によっては実施しており、子供達にとって非常に大きな学びの場となっており、地元企業の協力によって行うことができている。
- ・1学科あたり約40名定員となっているが土木システム科の2年生は26名と少なくなっている。学年全体でも154名しかいない状況。地元企業から土木科の生徒は求人について、声をかけていただけているが、非常に生徒が少ないという状況で、危機感を覚えており、我々も魅力発信をしている。そうしたところ今年の1年生はおかげさまで185名まで回復したが、少子化による厳しい状況が続いている。
- ・工場施設見学については、様々な企業の協力を得て、子供達にとって非常に大きな学びの場をいただいている。
- ・みやぎクラフトマン21事業については、いろんな方に当校に来ていただき、社会人講話、技術指導、出前授業をしていただいている。引き続き、生徒の学習指導等を含めて今後努めて参りますので、よろしくお願いします。

⑤石巻公共職業安定所

- ・令和3年度は5月の新規高卒者の対象地域説明会から始まり、7月の合同企業説明会、それから、10月に合同就職面接会を実施した。昨年度は、コロナ禍ではあったが、全て実施させていただいた。
- ・令和4年度については前年度と同じように5月の新規高卒者対象求人説明会を実施した。7月に予定していた合同企業説明会については急遽中止とさせていただいた。参加を予定されていた企業、生徒及び関係機関に大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。会場の都合とはいえ、代替開催等が実施できなかったという状況だった。そのため、パンフレット等の企業案内などの情報提供を管内の10校と管外の高校に提供させていただいた。

- ・その他、今年度については10月19日水曜日に新規高卒者合同就職面接会を予定している。会場は石巻市のささえあいセンターでの実施予定で今のところ、予定通り20社の企業が参加予定。参加申込は、全部で60社ほどから参加の申し込みをいただいたが、会場等の都合で20社選定させていただいた。当日の運営も含め、関係機関の皆様にも、協力をお願いしている。

⑥石巻高等技術専門校

- ・金属加工科については、ここ数年極端に入学者が減っており、令和元年度までは7、8人程度、入学者がいたが、令和2年以降は3人程度となっている。ただし、就職率は高く100%近いため、残念である。また、減少要因としては、受け入れ先企業の賃金が少ないことが考えられるが、半導体製造等の業界等、賃金水準が首都圏並みというところもある。そのため、中高生に向けての募集に関するパンフレットの作成・配布、オープンキャンパスを開催している。

⑦石巻市産業部

- ・桜坂高校企業見学ツアーを企画している。来年度3年生の夏休みに実施する企業見学ツアーのプレ企画ということで、現在の1、2年生を対象に希望者を募って開催する予定。コロナ禍でインターンシップ等再開できていないため、進路選択の材料となる体験ができればと思っている。主に女性が活躍している企業、或いは代表が女性の企業を見学できるように調整しており、来年1月の実施を予定している。
- ・11月に予定している合同企業説明会については、市が実施ということではなく、宮城県が設置するみやぎシゴトサポーター石巻、ハローワーク、2市1町という形で連携して取り組んでいる。
- ・石巻商業高校保護者向け企業見学バスツアーについては、東部地方振興事務所との共催で、高校生、保護者を対象に希望を募って開催する。

⑧東松島市産業部

- ・昨年度から市内企業情報発信充実事業として、紙ベースで企業ガイドブックを発行しており、QRコードの埋込や企業紹介動画を作成している。また、学生に直接市内の企業を見てもらった。その他、市内の企業同士がこの動画を見てもらうことによってお互い何をやっているのか知ることができるようになるなどの副次的な効果を感じており、将来的には企業同士のマッチングの材料にもなるのではないかと期待している。また、我々もなかなか見る機会の少ない工場の生産過程を見ることができ、非常に勉強になっている。今年も10社動画掲載予定である。成人式や大学等に情報提供している。
- ・合同企業説明会については2月に開催予定（みやぎシゴトサポーター石巻と連携）。
- ・創業支援については、ここ3年間力を入れて実施している。事前の相談体制やアフターフォローを手厚くし、相談会等も開催している。また、女性の起業にも対応した取組を行っている。
- ・商工観光課事業ではないが、「好きです東松島おかえり事業」を展開している。外に出ていった人材を東松島市に戻っていただくために移転費用の助成を実施していつでも戻ってこれる体制を整備している。
- ・その他、移住定住に絡めて「継業バンク」という事業を実施。これは、承継を検討している事業者と移住希望者とのマッチングとして設定しているところであるが、市外の学生等も視野に入れて後継者不足の解消を目指している。

⑨女川町産業振興課

- ・小学生等を対象とした産業人材の育成や地元就職に向けた就職というところで、女川町商工会に対して行っている補助事業として、「女川商売塾」という事業を行っている。女川の小学生を対象として、商売体験を行い、充実した生活実学を学習し、女川を担う人材育成を図ることを目的として実施している。今年度も実施しており、昨年度から中学生も参加をしてい

る。今年は12名の生徒の方が参加しており、10月2日(日)に町のスーパーの軒先を借りて1回目の発表会という形で販売会を実施した。本番については、10月23日(日)に秋の収穫祭が開催される中で、本番を行う予定。各班それぞれいろいろ考えており、文房具を購入してそれに利益をかけて販売する班もあれば、エアリングやハーバリウムを作って販売する班もあり、子供たちで様々な工夫をしている。

- ・社会人を対象とした地元定着の計画に向けた取組として「創業プログラム」を実施している。こちらは本気で創業したい方向けの創業支援プロジェクトで実施主体は、NPO 法人アスヘノキボウ。こちらは町で委託をしているもので、将来的な定住人口の増加と本町のにぎわい創出と活動人口の増加を目的として行っている。今年度も3名が受講をしている。このプログラムは本町で起業しなくてもいいという形で受け入れており、2名が仙台市で企業予定、1名が2年後に橋が架けられる予定の本町の出島で観光事業をしたいという方が受講をしている。この方は福島県の郡山市出身。これまで実施した中で49件受講者がいるが、その中でも本町で創業したのは9事業者となっている。

⑩東部地方振興事務所

- ・「令和4年度管内全日制公立高等学校3年生の保護者向け意識調査」を実施。石巻市と連携しながら今年度から石巻西高等学校を追加し、管内全日制公立高校全8校を対象に実施した。調査対象者数1,254人に対し、回答者数が228人、回収率は18.2%となった。本調査の結果から、子どもの進路決定に対する保護者の関心・関与度は高いこと、進学を勧めたい保護者が7割と多いこと、地元就職を望んでいる保護者が全体の3分の2を占めること、待遇面で石巻地域以外の企業に魅力を感じている保護者の割合が多いことが分かった。また、自由記載の意見として、企業の採用パンフレットが活字だらけで分かりにくいという意見や高校生に対して福利厚生や社会保険制度等、社会人になるための基本情報の理解を促すことも必要だという意見があった。
- ・石巻地域産業人材育成プラットフォーム事業としては保護者向け意識調査の他、管内高校生と地元企業等との交流事業については、7校10回にわたり実施することとしており、実施校及び回数、参加生徒や企業数も毎年増加している。
- ・石巻専修大学を対象とした地元就職伴走型支援について「石巻圏域企業研究セミナー」を昨年度から行っている。7/7,7/14の2日間合同企業説明会方式により実施。また、石巻専修大学の1年生全員が受講する「いしのまき学」で石巻地域の産業等を幅広く紹介させていただいた。その他、地元就職を希望する学生一人一人に伴奏型で管内就職を支援する「地元就職応援プロジェクト」においては、登録している学生4名のうち、現時点で2名が管内企業から内定を得ている。
- ・今年度からこれまで各教育機関の進路指導担当者向けに作成していた「産業人材育成・定着協働者ガイド」をリニューアルし、主に高校生及びその保護者、大学生向けに「石巻地域企業ガイド」を作成した。当事務所のホームページで公表しており、スマートフォンなどで誰でも手軽に見ることが可能となっている。現時点で約50社が掲載されているが、近日中に新たに約30社を掲載する予定。
- ・昨年度から石巻地域産業人材育成に関する意見交換会を実施している。この取組は、昨年度から新たに始めたもので、管内市町や街づくり団体などの担当者層が、現場目線で忌憚のない意見を出し合い、地域課題を共有しながら、その解決に向けた施策を検討するもので昨年度4回実施した。その中で、効率的・効果的な意見交換をするために検討テーマを絞るとともに、あまり大人数にならない分科会が必要との意見があったため、今年度は、短期的取組について検討する「地元就職促進チーム」と、中長期的な視点で取り組んでいかなければならない施策等を検討する「地元定着促進チーム」を立ち上げた。各チームで意見交換を重ねながら、新たに必要となる施策案を検討していく。具体案が取りまとめれば、本プラットフォーム会議へお諮りしたい。

⑪産業人材対策課

- ・当課で発行しているものづくり産業広報誌「オガーレ！ACE」については年3回発行しており、主に製造業、ものづくり企業を対象に紹介している。今回発行した9月号については、若手社員を紹介している仕事図鑑で、(株)スタ・ディアを紹介、技能伝承を紹介する内容では、(株)東松島長寿味噌を取り上げさせていただいている。また、宮城県の産業人材育成・確保の取組として今年度最初に実施した石巻工業高校向けものづくり企業見学会について掲載している。

議題(2)②意見交換

◇東松島市商工会

- ・先ほどから話を聞いていて受継ぐことが一番大事なことと思った。また、地元での定着が重要だが離職率がかなり高い。熊本県の半導体メーカーの大卒初任給が28万円とこの辺りでは現れない数字が出てきている。半導体事業そのものが突出している事情もあるが他の企業も影響を受け、賃金ベースが上がってくるのではないかと思っている。東京が拠点の企業は賃金、福利厚生が良く、地元企業とかなり差がある。この影響が地元企業にどのように波及していくかというところだが、ここ1,2年一番特化して改革すべきことと思う。
- ・私が経営している企業では65歳以上も雇用を継続する体制にしており、3年間給料とボーナスを変わず支給している。雇用の継続について取り組んでいるところ。企業は売上重視ではなく、利益確保についてしっかり取り組み、新卒の方が安心して働ける場所を提供すべき。

◇石巻市産業部

- ・東部地方振興事務所や東松島市の事業等、色々な取組をされていると感じた。企業紹介の冊子は今までだと、文字だけで見づらいものもあったが、どこでも見られて内容が見やすいという工夫されてきている。そういった中で、やはり高校生、大学生もやっぱりリアルに職場を見られる機会も非常に大切なのかなということを改めて思った。先ほどの信用金庫の佐藤常勤理事から話があった合同企業説明会では直接その学生・生徒と話す機会が重要で同じことを話すにしても、非対面と対面では印象に違いがある。それから企業見学会の重要性。企業の持つイメージがそれぞれあり、実際に働く人の表情が見え、会社の方針を色々聞くことができる。私もイメージと違っていた業界がある。例えば水産加工会社では、人の手で魚を捌くというイメージがあったが、今はもう機械が捌いて包装してくれる。そのため、このような企業のイメージを間違ったイメージのまま、子供に就職を勧めてしまうこともある。そういうことを少なくするためにも、企業見学会は非常に必要なのかなと改めて思った。
- ・文系の学生を理系で採用して人材育成をするという取組、初任給は記載されているが3年後5年後の給与がわかるようにすること、資格取得などのスキルアップに関する支援体制のような情報もしっかり出していった方が就職しやすく地元に残りやすい環境ができるのかなと思う。このようなことは一つの団体で取り組む話ではなく、しっかりと関係機関で連携していくことが必要。

－以上－